

平成 19年度アウトソーシングアクションプラン

様式 1

(部局名：海 洋 部)

1.部局としてのアウトソーシングの方針 (重視する効果や、大きな課題などを主題にしてください)		
<p>・ 種苗生産業務は、平成 17年度からマダイ種苗生産業務のアウトソーシングを開始し、現在、生産コストの削減、企業の異業種参入を目指し、ヒラメ・エビ類種苗生産のアウトソーシングを検討している。</p> <p>・ アウトソーシングの方針としては、流通・販売の強化や担い手の育成などの漁業者自らが主体性を発揮すべき漁業振興業務を系統団体にアウトソーシングしていく考えであるが、まず、その受け皿となる組織として県 1漁協の実現に向け取り組んでいる。今後、生産・流通・経営の各段階で専門的な知識・能力を有するプロパー職員を育成し、順次、業務をアウトソーシング(本来、業界が担うべき業務は移管)していく</p>		
2.これまでの状況 (スリム化分を除く)		
現実施計画でのアウトソーシング率		8.6%
H17～18 発注済件 数	アウトソーシング推進関連	3 件
	地域版アウトソーシング	0 件
H19 予算件数	アウトソーシング推進関連	2 件
	地域版アウトソーシング	0 件
特記事項 (課題の克服など)		<p>(ア)種苗生産業務は、(1)アワビはH17年度から休止、(2)マダイはH17年度からアウトソーシングを実施し、(3)残るヒラメ・エビ類は、受け皿を育てるための技術移転を検討している。</p> <p>(イ)漁船検認業務は、指定検認機関認可に向け関係機関と協議中。</p>
3.重点的に取り組むアウトソーシング業務とその概要		
(1)取り組む業務 (又は分野)		
生物モニタリング業務 宿毛湾地域魚病診断等業務		
(2)当面の課題		
(3)進め方や年次の計画など		